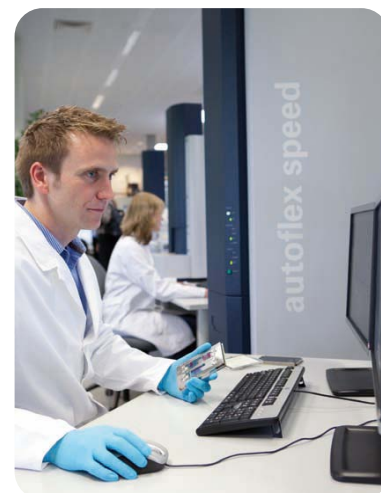


日時：2019/7/12 14:30-16:30

場所：遺伝子実験施設 セミナー室

## MALDI-TOF/TOF-MSによる アプリケーションの紹介

アプリケーションエンジニア： 蕪澤 崇



ライフサイエンス・材料および医用分野においてMALDI質量分析計が普及して久しく経ちますが、あらためて基礎を確認したい、あるいは既存装置を有効活用したいというご要望にお応えし、今回は**マトリックス支援レーザー脱離イオン化(MALDI)法の基礎**に立ち返り、併せて昨今関心が高まっている**ポリマー分析**や**MSイメージング**などの最新のアプリケーションについてもご紹介いたします。

他のアプリケーションについても、いくつかの測定事例も示しながらご紹介いたします。

### ● autoflex speed の基礎原理

MALDIによるイオン化や質量分析装置の原理・概略について、MALDI質量分析の基礎から解説します。



autoflex speed

### ● 最新型 LC-MS/MSによるプロテオミクス測定のご紹介

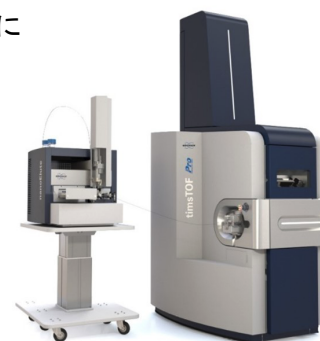
Matthias Mann教授(Max-Planck Institute)のアイデアとBrukerの技術が生み出したPASEF™をご紹介します。

既存の機器を用いた測定では、MSやMS/MSの取り込み速度を早めた際に、感度(S/N)もしくは分解能の低下が避けられませんでした。

これに対してPASEF™では、質量分解能がデータ取り込み速度に依存しないのはもちろんのこと、実効データ取り込み速度を早めた際にもプリカーサの強度が維持されます。

すなわち、PASEF™を用いれば、実効データ取り込み速度を速めても分解能と感度はトレードオフではなく、両立させることができるのです。

本セミナーでは、PASEF™によるまったく新しいプロテオミクスについてご紹介いたします。



Mass Spectrometry